

枝物の需要動向に関する研究

誌名	静岡県農業試験場研究報告 = Bulletin of Shizuoka Agricultural Experiment Station
ISSN	0583094X
著者名	外岡, 慎 船越, 桂市
発行元	静岡県農業試験場
巻/号	36号
巻号補足	
掲載ページ	p. 11-16
発行年月	1991年10月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



枝物の需要動向に関する研究[†]

外岡 慎*・船越桂市*

I 結 言

近年、花きの消費は、花と緑への関心の高まりにより順調な拡大を示している。しかし、枝物は、花き類のなかで相対的地位が低下し、需要が低迷傾向にあるといわれている。この原因として、枝物の主要用途である生け花（稽古）用需要が低下してきたためと考えられるが、一方で枝物の生産金額は順調な伸びを示し、生産数量もここ数年増加⁴⁾しており、その実態は必ずしも明確とはいえない。

著者らはこのような枝物の生産消費動向があるなかで、花き市場の経営者及び買参人が、今後の枝物需要をどのように考えているか、また、枝物の需要拡大を図るためにはどんな対応が必要なのか、流通の現状を把握し、今後の枝物産地の発展すべき方向性を明らかにすることを目的にアンケート調査を行った。切花、鉢物等の花きの消費傾向についての報告^{1), 3)}あるいは枝物を含めた流通実態調査²⁾等の事例はあるが、枝物に焦点を絞り、流通の実態と需要の見込みについて研究、報告した事例は見当たらない。この調査では、今後の枝物の需要動向について、参考になると思われる知見を得たので報告する。

アンケート調査には、花き市場の経営者及び買参人諸氏、調査対象市場の選定及び調査項目の決定等には西部農林事務所湖西引佐支所（現農林短期大学校）の川瀬技師、引佐町農業協同組合の武田花き係長、また、データの処理については農試企画経営部（現静岡県自立農業経営者協会）の村松義司氏に多くの助言、協力をいただいた。

II 調 査 方 法

1. 調査対象者と調査時期

平成元年3月、アンケート調査は花き市場の経営者及

びその市場の買参人を対象に行った。花き市場は、静岡県引佐町が枝物の著名な産地であることから、そこの出荷団体である引佐町農協が枝物を出荷する市場とした。また、買参人は、当該の花き市場のうち取引額が多い主要30市場に各市場ごと5人を、市場経営者にゆだねる方法で選定した。アンケートは、質問紙法により買参人も含めて各市場ごとに郵送により送付、回収した。

2. 調査対象品目

調査対象品目として、現在流通している主要な枝物及び今後注目されそうな枝物併せて75種類を選定した。また、花き全体の需要動向の中での枝物の位置づけを明確にするために、対照品目として主要な草花7種類を調査対象品目に加えた。

3. 調査項目

需要見込み、用途、イメージの3項について調査した。

(1) 需要見込み

需要見込みは、①少なくなる、②やや少なくなる、③普通、④やや多くなる、⑤多くなる、の5段階の尺度のうちから一つだけを選択させた。

(2) 用 途

用途は、①生け花用、②フラワーアレンジ用、③店売り用、④仕事花用、⑤その他、の5項目について、合計が10となるように用途別の比率を配分させた。

(3) イメージ

イメージを表わす語句として、①住まいの洋風化にマッチ、②ファッション性に優れる、③ソフトな色彩、④明るい感じ、⑤草姿がいい、⑥曲線美に優れる、⑦郷愁をそそる、⑧季節感がある、の8項目を示し、それぞれの項目について、①感じる、②普通、③感じない、のうちから1つだけを選択させた。

[†]本報告の一部は園芸学会（1990年4月・大阪府）で発表した。

*園芸部

III 結 果

有効な被調査者は54人(市場経営者35人,買参人19人)であった。地域別,市場経営者,買参人別人数は,第1表のとおりである。

第1表 地域別,アンケート回答市場経営者及び買参人人数

回答者	地 域					合計
	京浜	東北北陸	東海中京	関西	不明	
市場	15	2	8	9	1	35
買参人	6	4	7	0	2	19
合計	21	6	15	9	3	54

1. 枝物の用途と需要見込み

枝物と対照品目とした草花7種類の需要見込みの平均値,用途別の比率を第2表に示した。また,枝物と対照とした草花7種類の種類別の需要見込み平均値を第3表に,需要見込み平均値別の対象品目数と用途別の比率を第4表に示した。今回の調査で,対照品目とした草花7種類が,需要見込みが比較的高かったのに対し,枝物では,調査対象品目の52%にあたる39品目で,現状維持と

第2表 枝物,草花の需要見込みと用途別比率

品目	対象品目数	需要見込み	用 途(%)				
			生け花	フラワーアレンジ	店売り	仕事花	その他
枝物	75	3.1	61	13	13	8	5
草花	7	3.9	12	26	29	27	5

第3表 枝物,草花の種類別需要見込み

需要見込み ²⁾	品 目 名					
3.8~	スモークツリー (バラ) ^{Y)}	ワックスフラワー (スプレーバラ)	ライラック (カスミソウ)	アメリカハナミズキ (スプレーギク)	コデマリ促成花物 (スプレーカーネーション)	
3.3~3.7	グニーユーカリ マツツジ クレスト サクラ ダイオウショウウ	エリカ ウメモドキ サザンクロス ミモザアカシア	ツルウメモドキ ギンヨウアカシア ナナカマド	ピラミッドアジサイ テマリカンボク セッカヤナギ	サンシュユ ユキヤナギ促成花物 ユキヤナギ紅葉	ベニキリシマ ツバキ ゴールドマン サンパコデマリ ドウダンツツジ
2.8~3.2	サカキ ウバイ セッカンスギ キンボウジュ	ヒイラギナンテン アカメヤナギ ナズホウ	ホソバヒイラギナンテン キソケイ ハナズボウ	ピヨウヤナギ コデマリ紅葉 シキミ クジャクヒバ	センリョウ ロウバイ リキュウバイ	ギンコ ツバキ ボタン マンサク
~2.7	モクレン キンボウジュ	ハナモモ (カーネーション)	エンコウスギ	ニシキギ	ヒメマサキ	ギョリュウバイ

2) 需要見込み 5~1 5:多くなる 3:普通 1:少くなる

Y) () 内は草花

された。また,需要見込みが低下するにしたがい,その用途が生け花用に集中し,フラワーアレンジ用,店売り用,仕事花用の比率がそれぞれ低くなっていることが明らかとなった。

2. 枝物のイメージと需要

(1) イメージと需要

イメージと需要見込みとの関係を調べるために,需要見込みを目的変数とし,イメージ項目を説明変数として,重回帰分析を行った結果を第5表に示した。また,枝物の需要見込みと各イメージ間との単相関係数を第6表に示した。なお,分析に当たり,需要見込みは,①少なくなるを1,②やや少なくなるを2,③普通を3,④やや多くなるを4,⑤多くなるを5とし,無回答を除いた平均値をデータとした。また,各イメージ項目は,それぞれ①感じるを1,②普通を2,③感じないを3とし,無回答を除いた平均値をデータとし,解析を行った。その結果,需要見込みと最も関係が深いイメージは,ファッション性に優れるであった。また,ファッション性に優れるは,それぞれ住まいの洋風化にマッチ,ソフトな色彩を感じる,明るい感じがする,草姿がいいという4種類のイメージと相関が高かった。

(2) イメージによる枝物の分類

8項目のイメージにより枝物を分類するために,主成分分析とクラスター分析の群平均法を行った結果をそれぞれ第7表,第8表に示した。

主成分分析では,第1主成分に64%,第1主成分と第2主成分で82%の情報が集約された。第1主成分の係数の絶対値が大きいイメージは,住まいの洋風化にマッチ,

第4表 枝物、草花の需要見込み別の対象品目数と用
 途別比率

需要 ^{Z)} 見込み	対象 ^{Y)} 品目数	用 途(%)				
		生け花	フラワー アレンジ	店売り	仕事花	その他
3.8～	10(5)	24	31	24	16	5
3.3～3.7	26(2)	49	18	15	13	5
2.8～3.2	39(0)	65	9	13	8	5
～2.7	7(0)	74	7	8	6	5

Z) 需要見込み 5～1 5:多くなる 3:普通 1:少なくなる

Y) 対象品目数欄の()内は、うち草花品目数

第6表 枝物の需要見込みとイメージの単相関係数

項 目	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1 住まいの洋風化にマッチ	1.00								
2 ファッション性に優れる	0.96	1.00							
3 ソフトな色彩を感じる	0.88	0.88	1.00						
4 明るい感じがする	0.82	0.82	0.94	1.00					
5 草姿がいい	0.80	0.82	0.76	0.78	1.00				
6 曲線美に優れる	0.46	0.50	0.32	0.32	0.73	1.00			
7 郷愁をそそる	0.27	0.40	0.41	0.50	0.51	0.40	1.00		
8 季節感がある	0.19	0.27	0.32	0.42	0.36	0.29	0.82	1.00	
9 需要見込み	0.79	0.81	0.77	0.75	0.69	0.27	0.27	0.12	1.00

第7表 枝物のイメージに関する主成分分析の結果

イ メ ージ	主成分の固有ベクトル		
	第1	第2	第3
住まいの洋風化にマッチ	0.394	0.314	-0.023
ファッション性に優れる	0.407	0.223	-0.020
ソフトな色彩を感じる	0.399	0.195	-0.299
明るい感じがする	0.401	0.085	-0.323
草姿がいい	0.404	0.041	0.290
曲線美に優れる	0.267	-0.124	0.819
郷愁をそそる	0.273	-0.601	-0.085
季節感がある	0.223	-0.655	-0.209
累積寄与率(%)	64.3	82.4	93.4

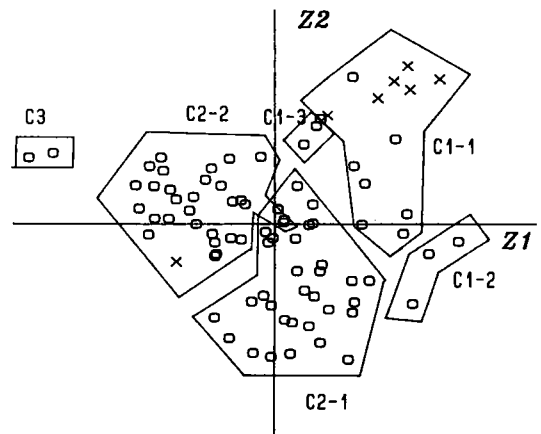
ファッション性に優れる、ソフトな色彩を感じる、明るい感じがする、草姿がいいであった。また、第2主成分の係数の絶対値が大きいイメージは、季節感がある、郷愁をそそるであった。

イメージに関するクラスター分析では、枝物は大きくC1、C2、C3の3つのグループに分類された。種類数ではC2が最も多く、次いでC1、C3はサカキ、シキミの2種類であった。

第1、第2主成分の各枝物のスコアとクラスター分析の結果を第1図に示した。C1は、第1主成分がプラス、第2主成分はプラスのものが多くははっきりした傾向は

第5表 需要見込みを目的とした重回帰分析の結果

イ メ ージ	偏回帰係数	標準偏回帰係数
定数	1.255	
ファッション性に優れる	0.694	0.613
草姿がいい	0.782	0.462
曲線美に優れる	0.534	-0.370
重相関係数	0.846	決定係数 0.715



第1図 枝物のイメージに関する主成分分析及びクラスタ分析(群平均法)の結果

Z) 名点は主成分分析結果による枝物の種類別スコア

○: 枝物 ×: 草花

Y) 点線による囲みはクラスター分析結果による枝物のグループ

見られなかった。C2は、第1主成分、第2主成分ともプラスからマイナスとはっきりした傾向がみられなかったが、さらに細かくみると、第1主成分がプラス傾向で、第2主成分がマイナス傾向のC2-1と、第1主成分が

第8表 イメージに関するクラスター分析(群平均法)により分類された枝物のグループ

グループ	品	目	名
C 1	1	アメリカハナミズキ ライラック ギンヨウアカシア促成物 ア スモークツリー ワックスフラワー ゴールドクレスト (バラ スプレーギク スプレーバラ スプレーカーネーション カスミソウ カーネーション) ²⁾	ピラミッドアジサイ ミモザアカシ
	2	コデマリ促成物 ユキヤナギ促成物 ツルウメモドキ	
	3	グニーユーカリ マルハユーカリ	
C 2	1	エリカ ガールマダノリア ハナズボウ クチナシ キソケイ花物 ツジ キンバコデマリ フイリガクアジサイ ビヨウヤナギ アカメヤナギ イカウツギ ボケ レンギョウ ベニキリシマツツジ ウメモドキ ムラサキシキブ ツバキ モクレン ミツキナンテン ボタン ロウバイ センリョウ ナナカマド ハクモクレン リキュウ バイ マンサク コデマリ紅葉物 ユキヤナギ紅葉物 サクラ ハナモモ サンシュユ	テマリカンボク ドウダンツ ダイオウショウ パ ツバキ モ リキュウ
	2	エニシダ花物 ハクチョウゲ トサミズキ ギョリュウバイ花物 ゲ サンカクパアカシア セッカンスギ サンゴミズキ キソケイ葉物 サザンクロス ヒイラギナンテン セッカヤナギ エンコウスギ オオサカベッコウマサキ コウバイ クジャクヒバ ヒメマサキ キンボウジュ葉物 キンボウジュ紅葉物 葉物 セッカエニシダ ヒメミズキ新芽物 ニシキギ ホソバヒイラギナンテン (キク)	ヒメミズキ ハナダケ ベニツ ギョリュウバイ花物 ギンヨウアカシア葉物 オオサカベッコウマサキ ギョリュウバイ
C 3	サカキ シキミ		

Z) ()は草花

マイナス傾向で、第2主成分がややプラス傾向のC2-2に分類された。C3は、第1主成分がマイナス、第2主成分は明かな傾向が認められなかった。

IV 考 察

1. 枝物の用途と需要

枝物は従来日本の伝統的な生け花用花材として安定した需要が見込まれてきた。この傾向は現在にも引き継がれ、今回の調査でも全枝物の約6割が生け花用花材として使用されていた。近年、枝物の需要が低迷する傾向にあるといわれる原因が生け花用花材としてしか使われないことにあるものと推察し、用途と需要見込みの関係について調査した。その結果、枝物は、今後とも安定した需要は見込めるものの、需要拡大の可能性が低いことがわかった。また、需要拡大が期待されるためには、用途が生け花用に限定されず、多様であることが条件であると考えられた。これらのことから、枝物が生け花用に用途が限定されている現状では、需要拡大にも限界があり、今後の枝物の需要を考える上でもこれを打開するためには枝物の新たな用途の開発が必要と思われた。

2. イメージと需要

重回帰分析の結果、需要拡大が期待される品目が備えるべきイメージは、なかでもファッション性に優れるというイメージであるように推察された。

主成分分析では、このファッション性に優れるというイメージを含め、住まいの洋風化にマッチ、明るい感じ、ソフトな色彩、草姿がいいというイメージが第1主成分に強く表れ、第1主成分は、明るくしなやかなイメージ

が表されているものと考えられた。一方、第2主成分は、季節感がある、郷愁をそそるといいうわば自然志向的なイメージが表されているものと考えられた。

この重回帰分析、主成分分析の結果に、クラスター分析による品目の分類を併せて考えてみる。クラスター分析により分類された3つのグループのうちC1は、需要拡大のため重要と思われるファッション性に優れるというイメージが含まれる第1主成分の因子がプラスに高い。このグループには、アメリカハナミズキ、コデマリ促成物、グニーユーカリ等13種類の枝物とバラ、カスミソウ等6種類の草花が含まれる。いずれの品目も需要見込みが高く、第1主成分が示す明るくしなやかなイメージが需要見込みと大きく関与していることが推察された。第2主成分について着目してみると、プラス傾向へバラ等草花類を中心に多くの品目が含まれるものの、第2主成分がマイナス傾向の品目として、季節感があるコデマリ促成物、ユキヤナギ促成物、ツルウメモドキの3種類(C1-2)があり、明確な傾向は認められない。第2主成分が示す自然志向的なイメージは、需要見込みと大きく関与していないか、あるいは、季節感がない、すなわち周年出荷が可能な品目への移行を花き市場の経営者及びその市場の買参人が期待しているものと推察されるが、この点について明確ではない。

一方、今回調査した枝物の大部分が含まれたC2について着目してみる。C2には、ハナモモ、エニシダ等60種類の枝物と一輪ギクが含まれ、第1主成分はC1グループに比べマイナス傾向にある。また、C2は、さらに細かく2つのグループに分類され、C2-1には、ハ

ナモモ、サクラ等に代表される和風的でしかも季節感をもつ花枝物が、C2-2には、セッカンスギ、クジャクヒバ等あまり季節感をもたない地味な感じの葉物が主に含まれた。このC2に含まれる枝物は、比較的需要見込みが低く、第1主成分と需要見込みとの関連性がここでも認められた。

C3は、シキミ、サカキの2品目で、第1主成分が極端にマイナス傾向で、他の品目とは明らかに異なるイメージを有していた。これは、両品目の用途が、他の枝物と異なり、神仏用の特殊な花材として用いられていることと関係しているものと推察される。

3. 総合考察

今後の枝物の需要見込みには、数種類の例外はあるものの、用途とファッション性に優れるというイメージが深く関連していることは明確である。今後枝物需要を拡大していくためには、用途が生け花（稽古花）用に限定されない必要がある。いい替えれば、枝物の用途の拡大、開発が必要であることを示している。用途の拡大、開発に当たり、着目すべき点は、ファッション性に優れるというイメージに代表される明るくしなやかな花材であるか否かという点であり、品目の開発を図るうえで重要なポイントであるものと考えられた。

V 摘 要

1. 枝物の需要動向を知るため、花き市場経営者及びそ

の買参人を対象にアンケート調査を行い、その回答に対して種々の解析を加えた。

2. 枝物の需要は、対照品目とした7種類の草花類に比べ低いものの、今後とも安定した需要が見込まれていた。
3. 枝物の用途は、生け花用に片寄っていた。
4. 枝物の需要見込みは、用途と関連が深く、生け花用に片寄ってる品目では低い傾向にあった。
5. 枝物の需要見込みは、ファッション性に優れるというイメージと関連が深く、ファッション性に優れる品目で、高くなる傾向にあった。
6. ファッション性に優れるというイメージは、住まいの洋風化にマッチ、ソフトな色彩を感じる、明るい感じがする、草姿がよいの4種類のイメージと相関が高かった。

引 用 文 献

- 1) 青木幸夫・中澤久志・水戸喜平(1990). 園芸鉢物の消費動向と消費者ニーズの解明. 静岡農試研報 35: 39~51.
- 2) 静岡県農業水産部(1984). 花き需要動向調査書.
- 3) 三輪智・船越桂市・松田岑夫・水戸喜平・村田治重(1984). 切り花の購買意識の分析. 静岡農試研報 29: 25~32.
- 4) 農林水産省(1990). 平成元年花き類の生産状況調査.

Studies on the demand trends for cut branches

Makoto TONOOKA and Keiichi FUNAKOSHI

Summary

- 1 . To investigate the demand trends for cut branches, factor analyses for the results of questionnaire were performed.
- 2 . The demand trends for cut branches were low in compared with those for cut flowers, but the stable demand trends for cut branches were expected.
- 3 . The demand trends for cut branches were related to their uses.
- 4 . The major demand of cut branches was for 'Ikebana'. However, the cut branches for 'Ikebana' showed the tendency to loose the demand.
- 5 . The demand trends for cut branches were related to fashion images. The better fashion images the cut branches had, the more demand trends resulted.
- 6 . The fashion image showed strong correlation with match with western style house, soft color, cheerfulness and fine form.